

# 令和3年度「狛江市学習状況調査」の結果 及び 経年変化の分析（小学校）

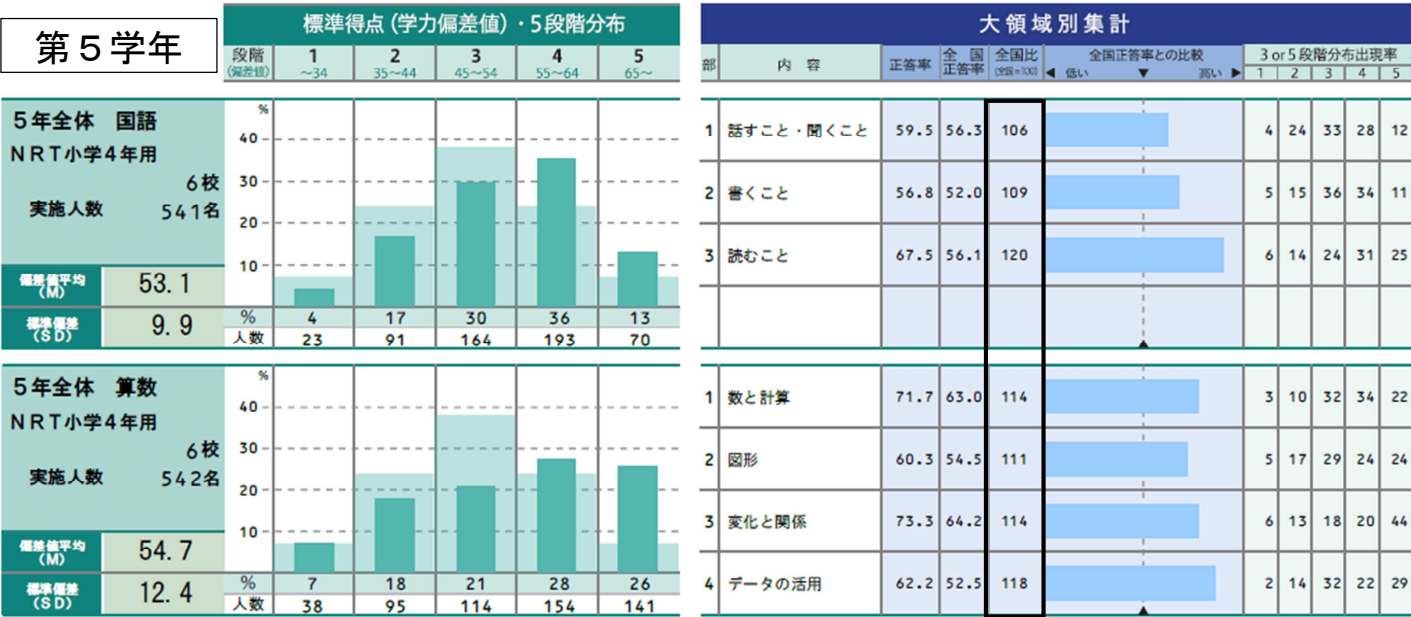
調査実施日 令和3年4月12日（月） 実施

調査対象、実施教科等

調査対象	実施教科	調査範囲	調査実施時間	受検者数
小学校	第5学年	国語、算数	40分間、配布と回収を含め1単 位時間（45分）を充てる。	542人
	第6学年	国語、算数		545人

- 調査の目的
- ◇ 児童の学習状況を把握し、児童の学力を把握・分析する。
  - ◇ 分析結果を基に日々の授業改善を行い、児童の学力向上に資する。

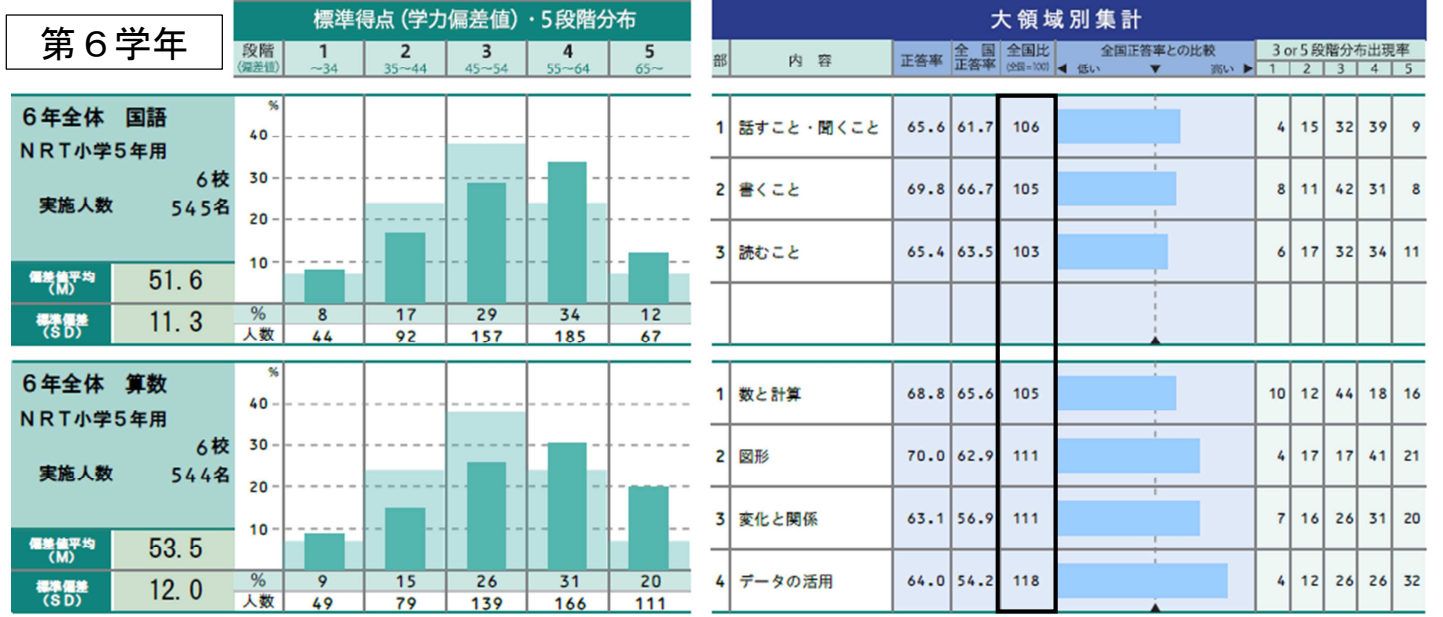
「狛江市学習状況調査」（標準得点・5段階分布と大領域別集計）※全国比…全国の正答率を100とした場合の狛江市の割合



国語では、学力偏差値 55 以上の段階 4 及び 5 の割合が全体の 49% を占めており有意に高かった。全ての領域が全国より高かったが、特に「読むこと」の領域では全国比で 20% 高くなっている。

算数では、学力偏差値 65 以上の段階 5 の割合が全体の 26%、また学力偏差値 55 以上の段階 4 及び 5 の割合が全体の 54% を占めており有意に高くなっている。全ての領域で全国比で約 10% 以上高かったが、特に「データの活用」の領域は全国比で 18% も高くなっている。

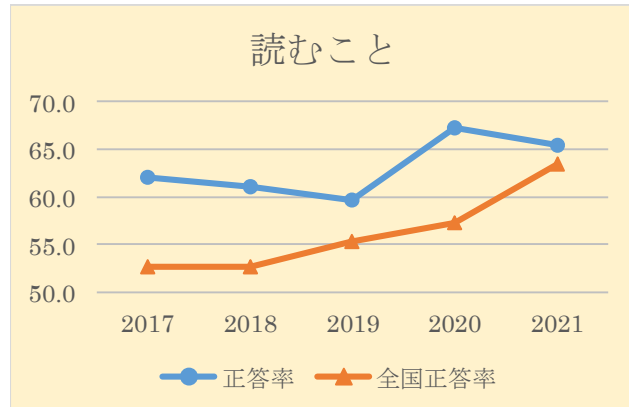
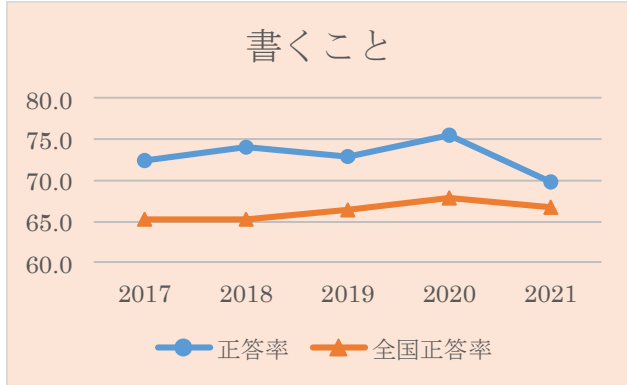
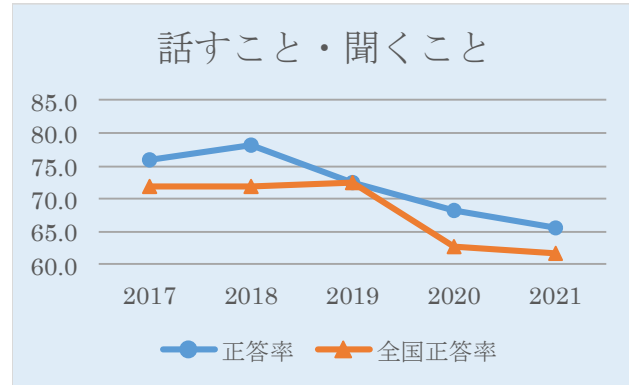
「狛江市学習状況調査」（標準得点・5段階分布と大領域別集計）※全国比…全国の正答率を100とした場合の狛江市の割合



国語では、学力偏差値 55 以上の段階 4 及び 5 の割合が全体の 46% を占めており有意に高かった。偏差値が 34 以下の割合が全体の 8% となっており、全国より約 1% 高くなっている。

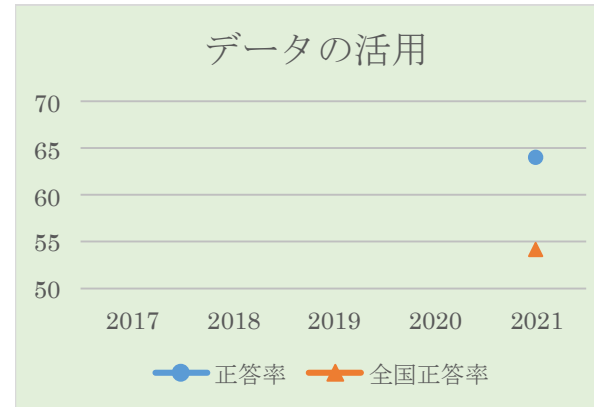
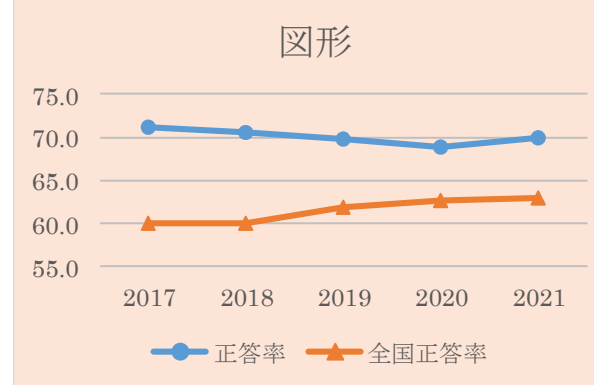
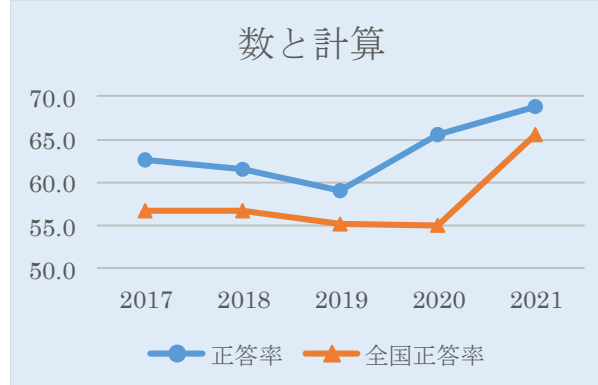
算数では、学力偏差値 55 以上の段階 4 及び 5 の割合が全体の 51% を占めており有意に高かった。偏差値が 34 以下の割合が全体の 9% となっており、全国より約 1% 高かった。領域で見ると「データの活用」が全国比で 18% も高くなっている。6年生になると国語、算数共に上位層と下位層が増加しており、二極化が現れ始めておりと読み取ることができた。

第6学年 大領域別集計の推移 国語



今年から、「伝統的な言語と文化と国語の特質」の領域がなくなり、3つの大領域となった。  
領域別では、全国正答率と比較すると、全ての領域で全国正答率を上回っているが、「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」については、経年の変化としては下降傾向となっている。  
一方「読むこと」については、昨年度より正答率が約2%低くなったが、経年の変化としては上昇傾向となっている。

第6学年 大領域別集計の推移 算数



昨年は「量と測定」「数量関係」の領域があったが、今年は「変化と関係」「データの活用」の領域に変更となった。  
「数と計算」は、昨年より約3%高くなったが、全国正答率は約10%上昇した。その結果、全国正答率との差は約3%となったが、上昇傾向の推移となっている。「図形」は昨年とほぼ同様に推移している。今年から新たな領域となった「変化と関係」は全国正答率より約6%、「データの活用」は、全国正答率より約10%高くなっており狛江の正答率は全国と比較し、有意に高い結果となっている。